

琉球大学学術リポジトリ

日米関係（沖縄返還）10

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/43785 |

東印
ズ
イ
ル
一
十
八

極秘

米日局長

2 大臣
1 次官
3 参事
4 法務
5 下田大使
6 米日局長

米局長
参事
参事
参事

米日局長
参事
参事

東郷、スティーヴン 会議 (11月8日午前)

44.11.8

米日局長

同席: 米日局長 (後列) 法務省 米地長 米調 (後列)
米日局長

1. 「ス」訪韓報告

(1) 「ス」訪韓、昨日 日帰りソウルに赴き、丁一権 総理と約1時間 話し合った。(ホーク大使同席)

その結果 同総理も大分安心した様子であった。
会議は非常に円滑に行き、固執 - 11月中3法
的向題あり - 大分進歩が認められる。成りかけた。
自分より 総理に対し 日本は韓国の安全保障に

つと十分 ~~理解~~ 理解を示した。交渉の詳
細は伝えずに、結果をみれば 韓国も理解
安心するであろう。 - 米日局長も述べた。
(2) 次いで「ス」訪、日本側の対韓プロパガンダ
米日局長は、在ソウル大使は 説明が良し
であった。その対象は 朴大総領事 丁一権 総理に
限らざる。その他下のレベルで 意味ありと述べた。
と、右方 米側も 日南大使の 簡略訪問 実現を
面談 ^{30分} すると、述べた。

2. 総理、米日大使 会議等

(1) 局長訪、21日 内務部長 白木内務大臣に
内信した 米側訓令系内容 (米電 3543号)

に742, 332-412 経済向題 注入した。と伝えた。
NPTは 固執 (米も同意見) と述べた。 A 2

概の有る再持込みを余り持たせらるゝ^{セツク}
その旨を述べた。

(2) 「ス」は、-昨日「ス」と電話連絡したが、文書上
ついでに「ス」に接し、訓令に接し、次を檢

討の上 10日(月)の朝に御相談した、と述
べ、次は「ス」の總理、又他大臣公使の意見(4
月4日午後4-5時とあり)

経手先方と「ス」の意見の上で、色々のつりつり
困る由)に於て暫時話し合つたが、^スは12日

(水)に半回向う出発する旨、局長に述べた(16日
10)に先着する旨とあり、又、明した。

(3) 右お「ス」は10日の了先直ぐ後、總理に
余り具體的詳細に觸れなかつたが、半回

より詳細関係等から見て、望ましい旨を付言した。

(4) また「ス」大臣の總理に交渉全般の概を述べたが、
局長

(又言の件に入らぬ、と述べた)

3. 在沖米企業問題

(別途記録。ス」は昨日の日本側書簡を
受入たが、^スと述べたが、在沖米問題の米国の立場

政治的重要性を強調し、^スは「ス」の意見
に言及する案文を呈示し、次は「ス」の意見に

案の局側同席後、^スは「ス」の意見に
言及し、彼等検討のついでに修正、後日

再び話し合ふことと述べた。

4. 「ス」の意見

局長は「ス」の意見の中、ス」の意見に
ついて

總理は「ス」は「米国の立場」の一部分は
考慮するよう述べたが、何か手直しが必要か

か検討してみたいと述べ、^スは「ス」の意見に
答へた